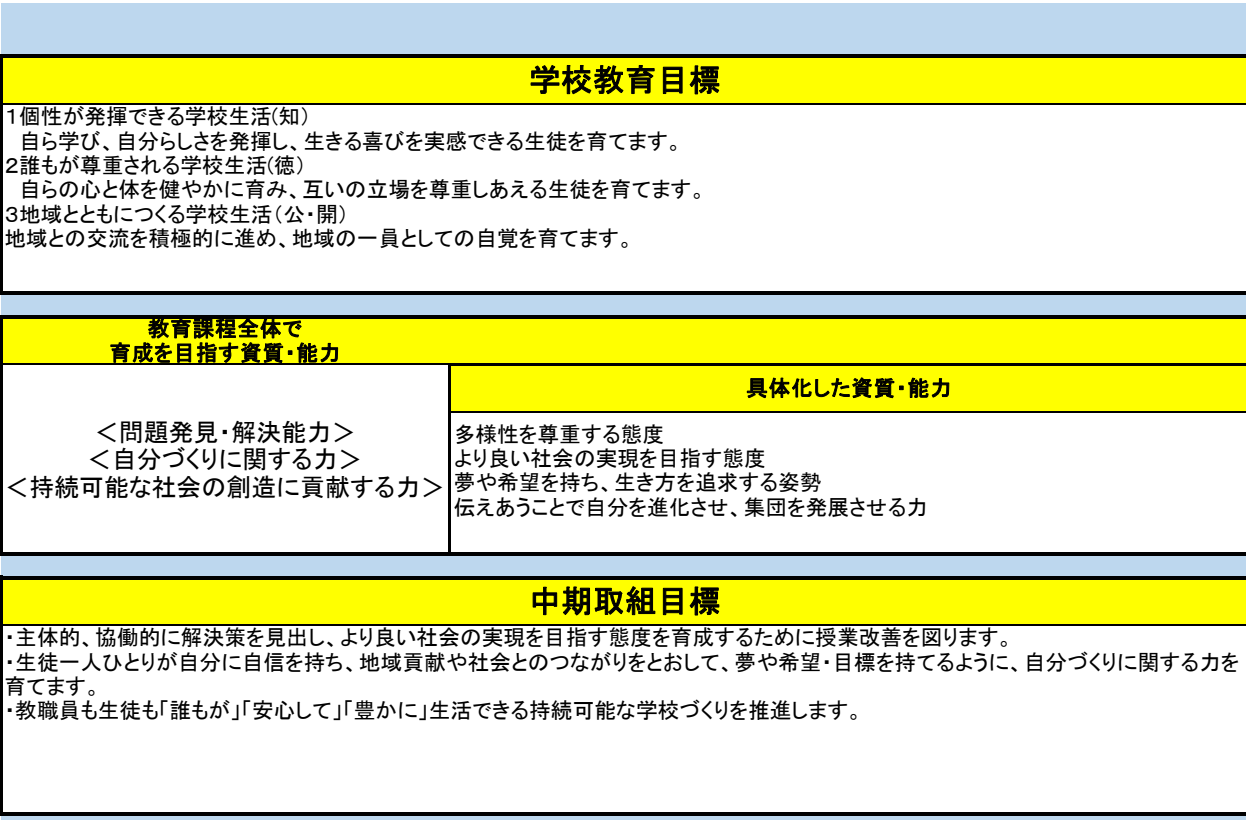


学校教育目標	1個性が発揮できる学校生活(知) 自ら学び、自分らしさを発揮し、生きる喜びを実感できる生徒を育てます。				
	2誰もが尊重される学校生活(徳) 自らの心と体を健やかに育み、互いの立場を尊重しあえる生徒を育てます。				
学校概要	3地域とともにつくる学校生活(公・開) 地域との交流を積極的に進め、地域の一人としての自覚を育てます。				
	創立 30 周年	学校長 池田ゆかり	副校長 小宅 実	3 学期制	一般学級: 10 個別支援学級: 2
児童生徒数: 374 人		主な関係校: 小田小学校(梅林小学校・西富岡小学校)			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	小田中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>&lt;問題発見・解決能力&gt; &lt;自分づくりに関する力&gt; &lt;持続可能な社会の創造に貢献する力&gt;</p>	<p>小田中学校 小田小学校</p>	<p>コミュニケーションを通して社会や自分の未来を創造する子ども</p> <p>・小中合同授業研究会、研修会を通して、主体的、協働的に課題を解決する力の育成を目指した授業改善。 ・小田小中学校の特色を生かした、自分づくりに関する力を育成する小中一貫カリキュラムの作成と実践。 ・小中合同スローガンをともに、持続可能な社会の担い手であることを実感できる取組の実践。</p>

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、協働的に解決策を見出し、より良い社会の実現を目指す態度を育成するために授業改善を図ります。</li> <li>・生徒一人ひとりが自分に自信を持ち、地域貢献や社会とのつながりをおとして、夢や希望・目標を持てるように、自分づくりに関する力を育てます。</li> <li>・教職員も生徒も「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる持続可能な学校づくりを推進します。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 授業改善 個に応じた指導 担当 教育課程委員会	①教育課程全体で育てる「資質能力」を念頭に置いて、教科の見方考え方を働かせて指導方法や授業改善、適正な学習評価が行えるように研究研修に努めます。②学習アプリを使用して個に応じた指導や支援を行います。③生徒による授業評価を実施し集計結果を共有、分析して授業改善を行います。
<b>徳</b> 道徳教育 人権教育 担当 学習指導部	①誰もが安心して豊かに過ごせる学校(社会)にするために小中で作成したスローガンを基にして、体験の共有と感情の共有を図り、自尊感情を育みます。②平和学習、人権学習、国際理解などを通して持続可能な社会の担い手の一人としての行動変容につなげます。
<b>体</b> 健康教育 食育 担当 保健安全指導部	①小学校栄養教員、家庭科教員、外部人材と連携したり、デリバリー型給食を利用したりして、バランスの良い食事や正しい食習慣を実現するように、食に関する教育に取り組みます。②小中合同学校保健委員会の活用により健やかな心と体を育成します。
<b>公 開</b> ESD/SDGs 担当 ホールスクールアプローチ	①教科学習や総合、特別活動をSDGsの視点で考え、多面的・総合的にアプローチすることで持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度を育成します。②SDGs達成をめざし探究活動を進めることで自分事として未来像を予測して計画を立て行動する力を育成します。
<b>自分づくり教育</b> 担当 特活生徒指導部	①多様な個性や環境を理解し、自分らしさを発揮して将来の夢や希望、目標を持てる生徒を育成します。②学校生活と社会生活や職業生活を関連付け、将来の目標と学業を結びつけることで、目的意識をもって進路を考える生徒を育成します。
<b>いじめへの対応</b> 担当 特活生徒指導部	①いじめ防止対策委員会を充実させ、いじめの未然防止・早期発見・解決に努めます。②生徒アンケートやYPアセスメントを通じて、実態把握と分析からいじめの未然防止・早期発見に努めます。③自尊感情を高める授業づくり・多様性を認める集団づくりを通して誰もが安心して過ごせる学校にします。
<b>特別支援教育</b> 担当 特別支援教育委員会	①特別支援コーディネーターを軸としたケース会議を定期的に開催し、個別の教育支援計画をもとにして生徒の教育的ニーズを把握し、組織的に支援や合理的配慮が行えるように努めます。②SC、SSW、関係機関との連携を図り、個に応じた課題解決を図ります。
<b>地域学校協働活動 学校運営協議会</b> 担当 教務・地域連携	①地域学校協働本部が運営する学習支援、キャリア支援、環境美化、部活動支援など学校の特色を生かして、地域と協働した教育活動を推進します。②9年間で育てる子ども像や学校評価から見える児童生徒の課題を共有し、地域貢献や社会貢献を通して自己肯定感が育てられるような活動を地域とともに展開します。
<b>人材育成 働き方改革</b> 担当 衛生委員会+有志	①教職員の学校運営参画意識を高めるために、情報共有システム(Onenote・Chromebook)を活用して、情報共有や意見交換を効率的に行えるようにし、全職員の組織的な働き方改革につなげます。②今日的課題に対して計画的な研修を実施し、教職員の資質能力を高めます。
担当	



学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善 個に応じた指導	①教育課程全体で育てる「資質能力」を念頭に置いて、教科の見方考え方を働かせて指導方法や授業改善、適正な学習評価が行えるように研究研修に努めます。②学習アプリを使用して個に応じた指導や支援を行います。③生徒による授業評価を実施し集計結果を共有、分析して授業改善を行います。
担当	教育課程委員会

学力向上に関わる本校の状況
<p>令和3年度に本校で実施した生徒による学校評価アンケートでは「生徒は、意欲的に学習に取り組んでいる。」という問いに対して、前年度と比べ、「思う」を答えた割合は生徒(2年)が+2%、生徒(3年)が+9%であった。全体的に学習に対して、意欲的に取り組んでいることが分かる。</p> <p>本校の状況として、教員から与えられた学習は丁寧に行うが、自分で学習方法を工夫したり、発展的な学習に取り組んだりすることが苦手である。また、語彙力に乏しく、自分の意見を伝えることに自信のない生徒が多い。また、それによって学習の理解度の差ができていく。</p> <p>そのような状況をふまえ、授業中の生徒同士のコミュニケーション活動を増やすために、自分たちで考え、思ったことを互いに共有する時間をとった。またコミュニケーションが苦手な生徒に対しては、他の生徒と交流できるよう教員がサポートを行った。</p> <p>また、授業の内容をレポート課題や振り返りカードなどで自身の考えをより詳しく具体的にまとめる取り組みをした結果、生徒たちの学習への意識が向上した。</p> <p>その他に、学習支援ボランティアによる個別支援やKCS(小田中地域コラボレーションシステム)による放課後学習会、取り出し授業なども行った。ユニバーサルデザインの視点に立ち、授業の内容がどの生徒にも分かるように、授業改善をこれからも続けていく。</p>

今年度の目標
<p>生徒一人ひとりが学習課題に対して、主体的、協働的に解決策を見出し、より良い社会の実現を目指す態度を育成することができるよう授業改善を図ります。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>【評価研修会】 評価活動を教科内で共有したり、見直したりなどし、授業の改善につなげていく。 【生徒による授業評価アンケートの実施】 全教科で、授業評価アンケートを実施し、経年変化も見ながら、授業の改善に務める。 【夏季休業中の学習会】 各教科で、基礎的・発展的な講座を設定し、生徒が主体的に選択・参加できるような学習会とする。 【校内授業研究会】 教科の枠をこえて、ねらい、発問、評価について授業をもとに話し合い、授業改善につなげる。 【その他】 5教科の副教材をオンライン教材の「みんなの学習クラブ」に統一し、各教科で個に応じた指導や支援を行う。 学習支援ボランティアによる個別支援やKCS(小田中地域コラボレーションシステム)による放課後学習会、取り出し授業を行う。 不登校の生徒も教室内の授業が受けられるように、オンライン授業を実施する。</p>	<p>【生徒による授業評価アンケートの分析】 授業評価アンケートの結果を集約し、各教科で分析する。校内研修会で授業評価のまとめを発表し、以後の授業改善に役立てる。 (研修後に学力向上アクションプランの具体的な行動に新たな取り組みがあれば記入する。) 【生徒による授業評価アンケートの再実施】 再度生徒による授業評価アンケートを行い、授業改善によってどのような変化が見られたか確認する。 【校内授業研究会】 教科の枠をこえて、ねらい、発問、評価について授業をもとに話し合い、授業改善につなげる。 【その他】 5教科の副教材をオンライン教材の「みんなの学習クラブ」に統一し、各教科で個に応じた指導や支援を行う。 学習支援ボランティアによる個別支援やKCS(小田中地域コラボレーションシステム)による放課後学習会、取り出し授業を行う。 不登校の生徒も教室内の授業が受けられるように、オンライン授業を実施する。</p>
上半期	下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①誰もが安心して豊かに過ごせる学校(社会)にするために小中で作成したスローガンを基にして、体験の共有と感情の共有を図り、自尊感情を育みます。②平和学習、人権学習、国際理解などを通して持続可能な社会の担い手の一人としての行動変容につなげます。
担当	学習指導部

豊かな心に関わる本校の状況
<p>・学校評価アンケートから、「生徒会や委員会などの活動に関心をもち、取り組んでいる」という質問について、30周年式典への取組や情報委員会の新たな活動など、生徒会活動の積極的な取組の中心が3年生だったことから関心が高まったが、1・2年生の3~4割が否定的な回答をしており、自主的に創造的な活動が十分であるといいたがたい。自分たちの生活する環境は誰かから与えられるものではなく、自分たちで創っていくという意識を育んでいくことが今後の課題である。</p> <p>「まわりの人たちに対して思いやりを持ち、自分と違った意見や考え方も尊重し、優しく接している」という質問について、肯定的な変化が見られ、全体として多様性を認める雰囲気が出てきたと考えられる。</p> <p>・YPアセスメントからは、自分づくり・仲間づくり共に平均値ではあるが、「自分づくり」に広がりがある学年と、「仲間づくり」に広がりがある学年とで分かれている。全体的に1回目よりも2回目に自己効力感が下がる傾向がある。</p>

今年度の目標
<p>①他者との関わりや社会の一員であることを実感しながら自分を見つめ、自尊感情を高められるよう、小中で作成したスローガンを基に多様な体験活動を推進します。②人権作文や人権週間の取組を通して人権意識の啓発を図ります。③平和学習、国際理解などを通して、持続可能な社会の創造に貢献しようとする態度を育てます。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>【項目 道徳教育】道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ・重点目標[ A 自律の精神を重んじ、何事にも粘り強く取り組む強い意志をもつ ][ C 正義を重んじ、協力し合ってよりよい集団や社会をつくらうと努める ]に関わる取組として、集中して深めたり、繰り返すなど、意図的な指導支援を行います。その際には各学年会を基盤に、指導方法や教材活用方法等に関する情報意見交換を日常的に行い、即効性のあるアプローチも実践します。 ・心の教育を推進する教科書「新しい道徳」を基とした年間指導計画を活用し、学校行事や各教科等、豊かな体験活動との関連を図った主体的に対話的な道徳科の授業を進めます。 ・懇談会やアンケート・道徳科授業公開後に寄せられた保護者や地域の声、YPアセスメントの結果や教育相談で把握した生徒の実態をふまえた指導支援を進めます。 【項目 人権教育・国際理解教育】 ・人権週間では、1学年「国際理解」2学年「働く権利」3学年「平和学習」を主軸に置き、3年間を見通した取組を通して、人権意識の啓発を図ります。 ・1学年の国際理解では、SDGsの視点で学習を行い、よりよい社会の実現に努める意欲を高めます。</p>	<p>【項目 自分づくり教育】夢や希望、目標をもてる生徒を育成する自分づくり教育 ・集団や社会の一員であることを実感しながら自尊感情や自己効力感を高めるよう、職場体験や地域行事に事業所や自治会、人々と連携して取り組みます。</p> <p>【項目 特別支援教育】すべての生徒が個性を生かし、多様な人々と協働できる学びの場づくり教育 ・特別支援教育連絡会や各学年会による連絡調整や情報発信を充実させ、障害等のある生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた合理的配慮を行い、適切な指導及び必要な支援にあたります。</p>
上半期	下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育	①小学校栄養教員、家庭科教員、外部人材と連携したり、デリバリー型給食を利用したりして、バランスの良い食事や正しい食習慣を実現するように、食に関する教育に取り組みます。②小中合同学校保健委員会の活用により健やかな心と体を育成します。
担当	保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況
<p>令和3年度の体力テストの結果並びに生活状況との関係性において、学年ごとに特徴が見られた。</p> <p>1年生では、朝食を食べる生徒81%、時々食べない13%、毎日食べない6%となり、市全体とほぼ同水準となった。睡眠時間は6時間未満が市全体と比べると1.5倍の人数であるが、8時間以上は同水準であった。また、1日のパソコンやスマホ、ゲーム機器の視聴時間は市全体の水準よりも多く、生徒の半分以上が2時間以上を費やす結果となった。1日の運動時間では、30分未満が全体の約30%を占め、また2時間以上が40%以上あり、運動する生徒としない生徒の差が大きく開く結果となった。しかし、運動時間とパソコンやスマホ、ゲーム機器の視聴時間との関係には大きな特徴は見られず、関係性は見られなかった。しかし、朝食の摂取の有無とパソコンやスマホ、ゲーム機器の視聴時間では、視聴時間の多い生徒は朝食を摂らないあるいは時々食べない生徒が多かった。また、睡眠時間との間にも同様な関係性があり、パソコンやスマホ、ゲーム機器の視聴時間が睡眠時間の短縮につながっていると考えられる。また、朝食を毎日食べる生徒は体力テストの総合結果もよいことから健やかな体の育成するためには朝食の重要性を理解し行動につなげられるようにすることが大切である。また、睡眠、運動時間のバランスも大切であると考えられる。また、パソコン、スマホ、タブレットの依存的な面を解消するための健やかな心の育成も大切であると考えられる。2年生は運動の体力テストの総合結果に生徒間に大きな開きがあり、運動時間と体力テストの総合結果に関係性が見られた。しかし、朝食や睡眠時間、パソコン、スマホ等の利用時間との間には関係性が見られず、不規則な生活であっても運動時間の確保によって補われたと考えられる。</p>

今年度の目標
<p>食事の重要性を理解させるだけでなく、食事を摂るための睡眠時間の確保の重要性や運動の必要性とも関連をもたせながら総合的な生活習慣の改善を目指す。</p>

目標を実現するための具体的行動プラン	
<p>・小田小学校と健康課題を協議し、今年度の小中合同学校保健委員会テーマを「ICT機器による健康への影響」とした。小中合同学校保健委員会では小学校、中学校での課題や具体的な解決方法を、児童生徒のみならず教職員、家庭、地域・関係機関の方々等と協議できるようにする。また、一部の生徒の参加による協議で終わらず、協議の内容や課題の具体的な解決方法を学校全体で共有し、生徒ひとりの意識向上や取組につなげていく。</p>	<p>・1年次にマリノスによる「食育教室」を実施し、プロスポーツに関わるコーチの実演や食育の話に触れることで、自らの健康に対する意識を高め、食生活を改善しようとする態度を育てる。</p> <p>・技術・家庭科では、食生活に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい食生活の実現することに向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指すために、小学校と中学校の内容の系統性を図り、食生活を家庭生活の中で総合的に捉えるという技術・家庭科の特質を生かし、家庭や地域との連携を図りながら健康で安全な食生活を実現するための基礎が培われるよう配慮し、食育の充実を図る。</p> <p>・生徒が将来にわたって健康に生活していくための資質・能力を身に付けられるよう、小中一貫教育推進ブロックの栄養教諭と連携し、必要に応じて栄養教諭の専門性を活用し、技術・家庭科の授業に参加していただいたり、講演をしていただいたりするなど、組織的、計画的な食育の推進を進めていく。</p>
上半期	下半期